答弁結果

質問　平岩議員（自民・中津川市）令和７年１０月２日（木）

１　リニア中央新幹線を活用したまちづくりの具体的な方向性について

答弁　知事

リニア中央新幹線を活用したまちづくりを進めるため、本年６月、県庁内の関係部局で構成する「未来のまちづくり検討プロジェクトチーム」を設置し、検討を進めてきたところです。

具体的には、東濃・可茂圏域のまちづくりの現状分析や、東濃圏域の各市に今後のまちづくりについてヒアリングを行ったほか、今後の方向性について議論を行ってきたところです。

これまでの議論を踏まえまして、東濃・可茂圏域のまちづくりの方向性として２つの視点をもって検討しております。まず、１つ目は「国内外から訪れてもらえる場所にすること」、２つ目には「首都圏、そして関西圏の生活圏として、働き住んでもらえる場所にすること」、この２つを考えているところです。

まず、１つ目の「訪れてもらえる場所にすること」という点では、先ほど議員からご指摘がありましたように、東京から１時間弱で結ばれ、特にトンネルを抜けると「別世界」の体験ができる特別な地域として感動してもらえるということが重要です。これを私はドラえもんの「どこでもドア」と表現しただけなのですけれども、そのためには、この地域が持つ、本物の自然や食、歴史・伝統文化、匠の技など、ここでしか体験できない様々な魅力を更に磨き上げ、国内外の方々に広く発信していくことが重要と考えております。

加えまして、東濃・可茂圏域から、更には下呂市や郡上市に至るまで各地に点在する魅力ある拠点を交通ネットワークで結ぶとともに、新たな観光拠点の整備や宿泊施設の整備にも取り組み、周遊性を持たせていく必要があると考えております。

２つ目の「働き住んでもらえる場所にすること」という観点では、生活圏・通勤圏に含まれることとなります首都圏、更には関西圏の方々から見ても利便性が高く、安心して働き生活できる環境を提供する、これが重要になると考えております。

岐阜県は、日本の中央に位置し、内陸県のため津波や高潮の心配がなく、特に東濃地域は地盤が強固であるため、地震にも強いという特性を有しております。こうした地理的・地形的な優位性と、豊かな自然に囲まれたストレスの無い環境、いわゆるストレスフリーと言いますが、これは大変な強みになると思っております。そこに先端産業などの研究機関やサテライトオフィスのほか、教育機関などの誘致に積極的に取り組んでいく必要があると思います。

同様の観点から、ご指摘のありました防災庁についても東濃を有力な候補地の一つ

として誘致を表明したところです。

さらに、この２つの方向性を実現する上での重要な取組としまして、地域らしい景観を有し、機能的で利便性の高い駅周辺の整備や、そこへアクセスするための濃飛横断自動車道や国道 19 号の瑞浪恵那道路など広域ネットワークの整備、自動運転なども含めた２次交通の整備を推進していくことが重要であると考えております。

今後も県庁内のプロジェクトチームで検討を進めるとともに、地元市町村や経済界、観光関係者などと議論を交わし、年度内に具体的な方向性を整理し、来年度中にリニア活用戦略を改定するなど、リニアを活用したまちづくりの実効性を高めてまいりたいと考えております。

担 当 課	リニア推進課
電話番号	058-272-8573
メ ー ル	c11135@pref.gifu.lg.jp